

## 都市再生の裏側を支えるスマートシティ ～岡崎市の取組～

愛知県岡崎市は徳川家康公生誕の地であり、800年にわたって三河広域で中心的な役割を果たしてきました。一方で近年は人気 YouTuber の活躍もあり、新たな魅力が生まれています。そんな岡崎市でスマートシティを活用したまちづくりに取り組む岡崎市役所デジタル推進課のみなさんにお話をうかがいました。



〔ご協力いただいたみなさま〕

岡崎市役所 総合政策部 デジタル推進課  
鈴木昌幸さん、村山恭平さん



画像引用：https://okazaki-kanko.jp/feature/ieyasu/top

## 都市再生とデータ利活用のつながり

内閣府 岡崎市のスマートシティ事業では「都市再生」という言葉が使われていますがどんな意味合いでとらえておられますか？

鈴木さん わかりやすく言うと「地方都市の中心市街地を元気にしましょう！」です。公共投資で街を作ってもそれだけでは元気にはなりません。街という空間を使って人を呼び込み、その流れが街中に波及して、投資が民間へ還元されていく。ハード面だけではなくソフト面でも多くの方に使ってもらえる仕掛けをしつつ、都市再生の全工程を裏側からスマートシティがささえる。そんな取組を進めています。

内閣府 スマートシティではデータ利活用が重要になってきますね。

鈴木さん 岡崎市では、まちづくり現場のデータ活用をいくつかの型に分類定義しています（次頁図参照）。例えば、自動車依存度の高い岡崎市では、まちの賑わいが増えると渋滞が深刻化します。そこで、公設や民設の駐車場のリアルタイム満空情報を発信しています。これはデータを「見せる化」して、空き駐車場待ちで発生する渋滞を抑制するものです。



三河武士のやかた家康館（2023年「どうする家康 岡崎 大河ドラマ館」開催）。観光客増加に伴う渋滞緩和や経済振興にもデータを利活用。  
画像引用：https://okazaki-kanko.jp/photo/94

鈴木さん また、岡崎市の公共空間でイベント等を主催する人達は、「賑わい増加と渋滞緩和の両立」を気にかけてくれています。そこで、人流カメラや車流カメラで取得するデータ、イベント日程、天候データを総合的にモニタリングしながら、より良い運営を目指せるダッシュボードを構築しました。このような活用を「改善改革型」としています。

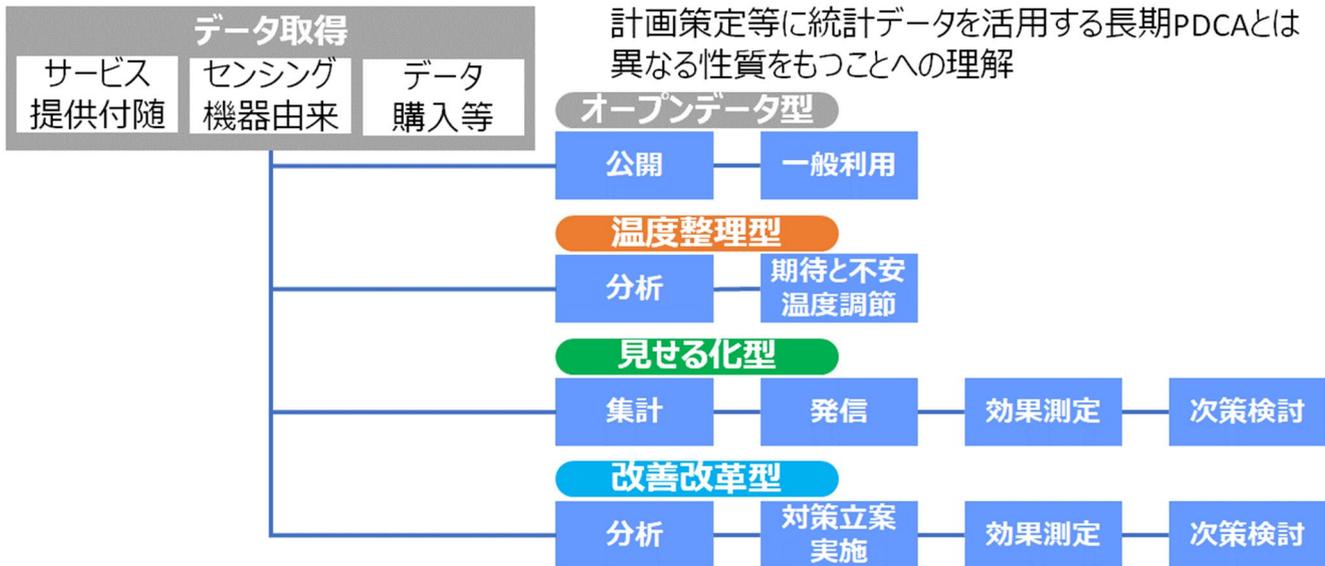
内閣府 ニーズが先にあってそれに必要なデータを集めたのですね。

鈴木さん データニーズが先にあって、データニーズ駆動型の都市 OS<sup>※1</sup> を作って、スマートシティを作る、という手順です。都市 OS は便利だと思いますが、まずはデータの使い方をイメージすることが大切だと思っています。

内閣府 なかなかそのように考えられる人は少ないと思います。ぜひとも広めていきたいお考えです！

※1 スマートシティに求められる代表的な3つの特徴「①相互運用、②データ流通、③拡張容易」の実現に有効な基本的開発環境および運用環境を提供するITシステム

# データ活用事例の蓄積から経験的に活用類型を分類定義



データ活用用途の分類。「最初からこのように考えていたのではなく様々な事業に取り組む中で知見をためてきました」(鈴木さん) とのこと

## 企業と市役所内、市議会との関係性

内閣府 岡崎市のスマートシティの取組はどんなメンバーで進められていますか？

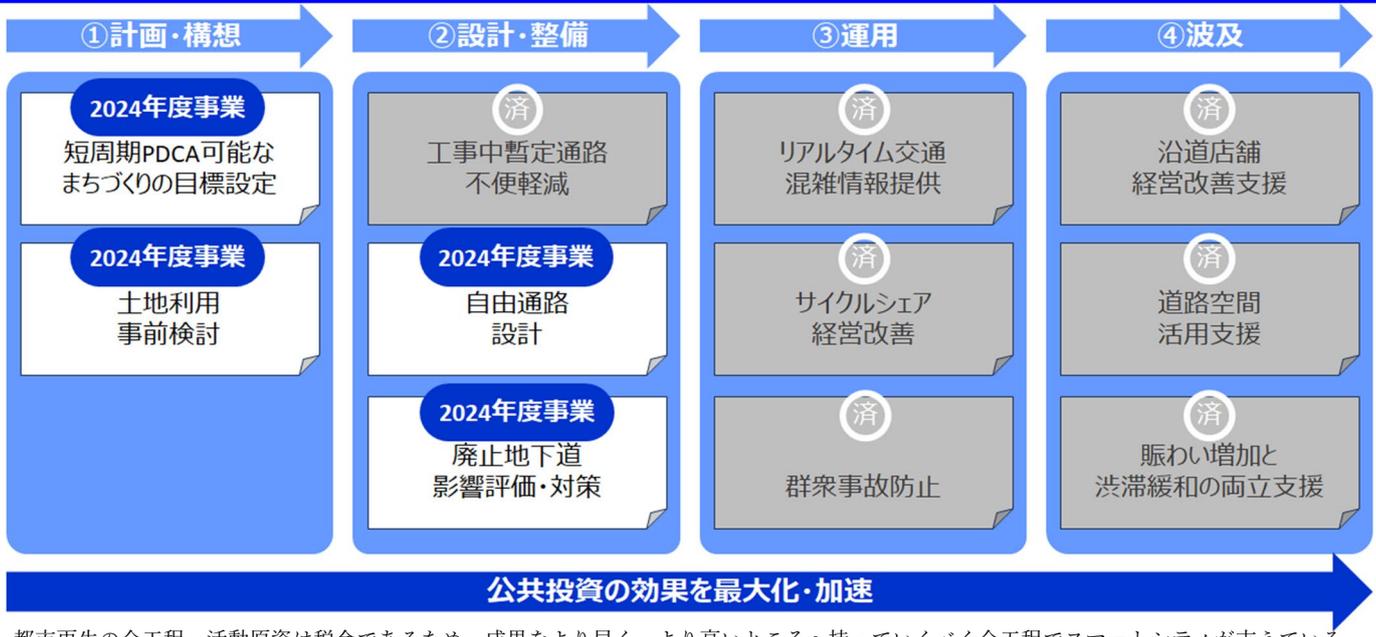
鈴木さん メンバーは固定ではないんです。「岡崎スマートコミュニティ推進協議会」の総会にて、岡崎市はどんな方針でスマートなまちをつかっていきたいか紹介します。そして協力してくれる企業は手を挙げてほしいと参画企業にリクエストするんです。個別商品の売り込みでなく、ニーズに合わせたソリューションを提案してくれる企業だと嬉しいですね。

内閣府 商品の売り込みですと視野の狭い提案になりそうですね。

鈴木さん そのとおりです。また街づくりを実証の場として自分たちの技術の発展させていきたい意気込みもあり、無償で協力してくれる企業も多くあります。地元愛知県の企業も積極的にチャレンジしてくださいませ。

内閣府 あまり先進的すぎると反対意見は出てきませんか？

## 都市再生を全工程で支えるスマートシティ



都市再生の全工程。活動原資は税金であるため、成果をより早く、より高いところへ持っていくべく全工程でスマートシティが支えている。

## 岡崎市のサイクルシェア経営改善



スマホ1つで  
予約  
貸出  
決済



岡崎市で展開する電動サイクルシェア事業。データ分析から時間帯ごとの利用者属性を推定しニーズに応えることで事業拡大につながった。

鈴木さん 岡崎市民は伝統的にチャレンジに対して寛容だと思えます。寛容だからこそ丁寧に説明をして理解を深めていただいています。市議会議員へも「このように岡崎市をより良くしていきたい」「技術はこのようなになっています」というように丁寧に説明して、いい反応をもらえています。

内閣府 市役所内ではどのように説明をしていますか？

鈴木さん まちづくりの現場担当者へは、スマートシティと総合計画や予算編成方針の整合性を説明、そのうえでDXには予算が付きやすいのでチャレンジしよう、といったことを研修で声かけしています。あわせて財政課予算査定や議会説明への同行、国事業への申請書作成、企業とのマッチングといった応援もします。スマートシティを理解してもらい、一緒にチャレンジしましょうということですね。

内閣府 それは現場の方々にとって、とても心強いですね！

## 仲間を募って世界へチャレンジ

内閣府 今後の取組について何か展望はありますか？

鈴木さん 少し大げさかもしれませんが、日本が世界に向けて高いプレゼンスを発揮できる国であってほしいと思っています。スマートシティにおいても、岡崎市の取組に限らずどこかに世界に自慢できる取組、世界に売り込める取組のかけらがあるはず。そのかけらをどうやって発掘して、磨いて、表現していくのか。そんなことに熱量高く挑戦している方がいれば、ぜひ一緒にさせていただきたいです。岡崎市は国から実証実験の補助金をもらっていますので、国内の先進事例構築にとどまらず、世界にチャレンジする責任を感じながら、スマートシティに取り組んでいます。

内閣府 国においても戦略をもって進めていきたいテーマです。どうもありがとうございました！



岡崎市に流れる乙川。東岡崎駅や岡崎城など主要拠点を結ぶ回遊動線「QRUWA(くるわ)」は都市再生戦略の中心となっている。



鈴木様、村山様がお写真撮影の際に偶然出会った、課外授業中の岡崎市内の高校の学生様達との一枚。このような偶然を通じて、鈴木様、村山様のまちづくり仲間の輪が広がっていくとのことでした。

(編集後記) 今回お話をうかがって、世界を見据えた俯瞰的な視野から現場のメリットになるデータ活用まで幅広く知見を持たれており、深く感銘を受けました。国のスマートシティ政策において都市OS(データ連携基盤)はスマートシティの構成要素の1つです。岡崎市の考え方が横展開され多くの自治体が都市OSの導入可否を判断できるようになることを期待しています。ちなみに龍田公園のそばにあるコーヒースタンドはオーナー自らDIYで作られたそうですよ。(終)